

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950480010		
法人名	医療法人景雲会		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	甲州市勝沼町菱山4300		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが興味を持てる事や力を引き出すような事を、クラブ活動やレクリエーション活動として行っている。利用者の希望を聞き、遠足・外食を楽しんでいる。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり、ボランティアの方を招いたりしている。今年度より、全国の郷土料理を2か月に1度、特別メニューとして取り入れ、旅行先で食べたこと等を思い出しながら、味と会話を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

立地場所は、遠くに雪山が、眼下にはブドウ畑の甲府盆地の眺望が見渡せる。各居室は、とても広いスペースが用意されていて、個人のプライバシーも充分保たれている。身体拘束に関して、スピーチロックに気をつけるための工夫がなされている。ケアに関して、医療ケア経験者の技能を活かしたケアマネジメントがなされている。利用者はとても朗らかで、楽しい雰囲気事業所であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームアゼリア

[セル内の改行は、(Altキー) + (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切に、積極的に活動している。	左記同様	理念に基づく、運営方針・目標を管理者と職員で話し合い明確にして、駅前環境の整備等の実践活動を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	警察署及び駅前の花の手入れや、交通安全教室に参加する等して、地元の人々の交流を深めている。	左記同様	運営推進会議において、地域への事業所からの働きかけだけでなく、地域からの誘いもあり、運動会や敬老会に参加している。地域のボランティアの訪問や近所の方の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の割合で開催しており、実際に取り組んだ内容や今後の活動等について報告している。それに対して意見交換を行い、そこで得た情報をサービスの向上に活かしている。	左記同様	運営推進会議は平日に開催し、自治会や民生委員の参加もあり、内容に関しては広報紙に反映し、家族にも配布している。年2回家族との面談の機会を持っている。	地域密着型サービスとして、もっと家族が事業所の運営にまで協力を得られる仕組み作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行っている事から、会議の場以外でも情報やアドバイスを頂き、市町村との連携を図っている。	左記同様	毎月、市役所に利用者と同行し、市の広報を取りに行き、庁舎内の見学や展示を見たりしている。 運営推進会議には、積極的に参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を学習し理解している。玄関は、日中センサーを設置し、自由に出入りができるようにしている。また、居室においても昼夜を問わず鍵はかけず、自由に出入りできるようにする等し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	身体拘束に関しては、身体拘束防止委員会を組織し、現在は、スピーチロックに関して、ビデオ等を使い事例検討をしている。また1週間ごとにテーマを決めて、決まった日には腕章を付け、互いに注意し合う仕組みがあり、積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また、利用者の意見も傾聴し不平不満等を受け入れ、ケアや運営に反映している。	左記同様		利用者からの要望では、運営推進会議において、調理時における職員の身支度に関して要望を受けたりし、自由に発言できる環境が作られている。家族には年に2回、個別面談を開催し双方の協力関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様		献立作りにおいて、新館・本館では、利用者の状況も違うので、別々の献立作りを提案し、実現実行するようになり、職員からの提案を積極的に採用してもらえる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持ったり、勉強会等を定期的に実施する中で、職員が向上心を持って働く事が出来るよう努めている。	左記同様			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施をしている。その後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。	左記同様			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、勉強会や交流会を通じて活動し、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。	左記同様			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は可能な限り対応できる様に努めている。	左記同様			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」「出来ない事をサポートする」等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者から多くのことを学んでいる。	左記同様			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず家族と話をする時間を設け、良い雰囲気を作っている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や集まりに参加する等して、これまでの生活が途切れてしまわないように支援している。	左記同様	家族が付き添う敬老会や近所の人が付き添って組の花見会、お寺の行事に参加している。孫が曾孫の誕生で訪問したりしている。畑仕事が好きな方は、ホームの畑仕事をしてもらっている。編み物・縫い物などし、オルガンを弾く利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う事が出来るように、さりげない声掛けや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも本人及び家族から相談を受けた場合は、必要に応じて対応している。	左記同様		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族と話し合う機会を持つ事により、希望・意向の把握に努めている。	左記同様	日頃「ああしたい」「こうしたい」と利用者が気軽に話しかけてくれる環境が作られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族との面談を行い情報収集し、本人の把握に努めている。また、センター方式を活用している。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送りなどを活用して情報を共有し、利用者の現状を把握するように努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、面会の際に家族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が意見を出し合いながら検討し作成している。	左記同様	担当制だが、偏りをなくするためにショートカンファレンスを持ち、職員全体で気づきや感じたことを汲み取るようにしている。職員の年齢層の違いも日常のケアに活かし、ボランティアからも知恵を出してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケアや介護計画に反映している。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。	左記同様		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署及び警察署、その他民間の協力により、地域で行われているボランティア活動に参加させて頂いている。	左記同様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関や近隣の総合病院等と連携をとっており、気軽に相談できるような体制が確保されている。また、かかりつけ医とも常に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	左記同様	受診時には、看護師であった職員が経験を活かした状況報告書を作成し、かかりつけ医の的確な支援を受けることが出来ている。具体的には薬が変わった時など、解らないところは、必ず聞くようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老人保健施設の看護師に相談する等して支援している。	左記同様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、面会に行き家族や病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて、話し合いをしている。	左記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、利用者の有する力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう、事業所認知症対応型共同生活介護計画に基づいて、介護機能訓練、その他日常生活の世話をし、居宅における生活への復帰を目指す事を第一に考えている。その為、終末期の体制はとっていない。また、重度化対応もとっていない。	左記同様	事業所としては、重度化・終末期を迎えた利用者が過ごす体制を取っておらず、居宅生活への復帰を目指している。元気な利用者がより元気に過ごせる場を提供している。重度化した場合には、希望の施設に行かれるように支援をしている。具体的には、医療が必要になった場合は、老人保健施設に入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命の講習を受け、定期的に学習している。また、マニュアルを作成し併設施設の看護師の指導の下、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できるように学習している。	左記同様		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で確認し合っている。また、年2回、地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。	左記同様	ホームは耐震構造になっていて、地震災害時には避難場所になる。火災時の訓練は、消防署が来て訓練を行い、煙体験・地震体験車による体験も行なっている。1ユニットごとに食材も備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも、利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉遣い等に気を配り、その場の状況を見て言葉掛けや対応をしている。	左記同様	個室は、プライバシーを守るように、扉は常に閉められており、何かあった場合ナースコールできるようになっている。利用者の名前の呼び方について、入居時に確認し個人の話は、他の人がわからないところで話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事ができる雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿うよう支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を利用できるようにしている。また、外出時に家族と馴染みの理美容院に行く事もある。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も利用者と共に食事をとり楽しく過ごしている。	左記同様	出来ることは利用者にしてもらっている、配膳・下膳などは、職員同様に活動されている。男性の利用者は、苦手のようなのである。職員も含めて全員で食事をしたら、食事をおいしく食べられるといわれた方もあった。食べることを楽しみとされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等、一人ひとり把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け等行い口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	全員自立されている。歩行に不安がある利用者には、付き添っていく場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して便秘予防を図っている。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるように配慮し、入浴を楽しめることができる支援をしている。	左記同様	一般家庭用の浴槽で、いつでも入浴可能となっている。風呂の清掃は、職員が行なっている。入浴拒否のある利用者には、声掛けや気分転換などを図り、場合によっては、家族の援助を貰うこともある。温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になるように働きかけ、安眠できるよう支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		
47		○服薬支援 一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談出来る体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族からこれまでの生活歴を聞く等して把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができるように支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、買い物やドライブに出掛ける等して、戸外に出掛ける機会を設けている。また、利用者や家族の意見を取り入れながら、毎月遠足等を計画し、四季折々の季節を楽しみながら、外出している。	左記同様	買物・行事・外食(回転寿司・ファミレス・デパートの食堂)などへ車で送迎している。ティータイムに、2・3人で出かけることもある。季節の行事は新館・本館一緒に行なっている。家族も受診のとき利用者と一緒にお食されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、場合によっては家族との話し合いの上で、小額を自己管理している利用者もいる。また、買い物の際には自分で支払いができるように財布を渡し支援している。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話している。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	見晴らしの良いベランダで、職員と共に洗濯物を干したり、全員が共にくつろげるソファが用意されていて、様々な話題が飛び交っていた。畳敷きのコーナーもあり、高齢の方は過ごしやすいようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持って来て頂き、本人及び家族と相談しながら配置場所も考慮している。	左記同様	居室は広く、自分の持ち物が様々持ち込まれ、利用者の個室として充分くつろげる安心感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使い易いように工夫している。	左記同様		